

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平/令和6年2月24日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670103904
法人名	有限会社 ドリーム・ミソノ
事業所名	グループホーム紫原
所在地	鹿児島県鹿児島市紫原4丁目34番31号 (電話) 099-250-2643
自己評価作成日	令和6年1月15日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和6年2月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・高台にあり春になると道路沿いの桜や近くの公園の桜がとてきれいでコロナが少し治まり始めた昨年は規模を小さくはしましたが入居者様を花見見物へお連れしています。

・近所に公園や学校・医療機関があり大きな道路から少し入ったところにある為、とても静かで恵まれた環境に作られたホームです。

・学校の職場体験学習の受け入れや地域の文化祭・夏祭り・運動会の見学を行うなど地域の方との交流を行っています。(現在はコロナ禍の為中止)

・入居者様には出来るだけ入居前と変わらぬ生活を送って頂きたい為、ご自宅で使用していた家具などをお持ち頂く事をお勧めしております。

・入居者様が日々楽しく暮して頂ける様努めております。

・施設内は広々とした空間があり開放感があります。

・職員は介護福祉士の有資格者が多く月に1回の内部研修や外部研修にも力を入れ常に自己研鑽に努めております。

・災害時の避難場所も近くにあり避難訓練を定期的に行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、鹿児島市の中心地から数キロほど離れた紫原地区の一角に建物の1・2階部分に1ユニットずつ平成18年に開設している。周辺には小・中学校や保育所、コンビニ、大型のショッピングセンター、金融機関、多種の商業施設、個人住宅等が立ち並び利便性に変恵まれている。ホームの窓からは雄大な桜島や車、人の往来が眺められ、幹線道路から少し入っているため気になるような騒音等は感じられず、四季を感じながら平穏に暮らせる環境である。

管理者及び職員は、ホームの理念をホールや事務室に掲示し、日常的にケアの振り返りや意見交換を行って認識を共有している。日頃の関わりの中で利用者の思いを丁寧に汲み取り残存能力や自己決定を尊重しながら、その人らしい安らぎと生きがいのある日々となる支援に取り組んでいる。利用者や家族からの意見や要望等にも迅速に検討して改善に努めており、本評価に伴う家族アンケートからも信頼度の高さが窺える。

管理者及び職員は家族や地域との交流や関係の継続を大切に取り組んできており、コロナ感染症が5類に移行したのを機に、家族や友人とのオープンな面会や周辺の散歩、訪問美容、ドライブによる初詣で、季節の花見、家族との外出、外食、一時帰宅、法事への参列、ボランティアの受け入れ等を感染予防に配慮しながら実施している。また、住民から寄せられる高齢者福祉や認知症ケアの相談や施設見学等にも丁寧に対応する等、円滑な交流が図られている。地域のイベントの殆んどが現在も中止されているが、ホームとしては再開を待ち望んでいる。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	共通認識を深める為、事務所やホール等、目に付きやすい場所へ掲示している。	ホームの理念は目に付きやすいホールや事務室に掲示し毎月のミーティング時の唱和でも周知を図っており、日常的にケアの振り返りや意見交換も行って意義を共有し実践に努めている。利用者の尊厳や人格、思いを大切にしながら家族や地域との関わりを継続し、その人らしい生きがいのある利用者主体の支援に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ過以前は、地域の文化祭や夏祭りの見学への参加、認知症カフェ等、地域の方と触れ合う機会があったが、現在はなかなか出ていない。	コロナ感染症が5類に移行したのを機に地域との交流を再開しており、家族や友人との面会（ホールや居室でオープンな状態）や近くの公園への散歩、訪問美容、ボランティアの受け入れ、ドライブによる初詣で、季節の花見、家族との外出や外食、法事への参列、墓参等に取り組んでいる。町内会に加入して情報を把握し回覧板の受け渡しを利用者と一緒に行い、地域の人から寄せられる高齢者福祉や認知症ケア、施設見学等の相談にも丁寧に対応するなど円滑な交流が図られている。地域のイベントの殆どが現在も中止されているが、利用者ともども再開を待ち望んでいる。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	玄関通路へ資料やパンフレットを掲示し、気軽に手に取りやすく工夫している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ過以前は、第三者へも参加して頂き、入居者様の現状やサービスの実際を報告し意見を頂いていた。現在は、報告書を送付し、意見を頂ける時は頂ける様に工夫している。昨年はコロナ感染が発生していない時は小規模であるがご家族様参加にて運営推進会議開催している。	書面での会議が続いていたが、本年度は家族や民生委員、長寿安心相談センター等が参加して隔月毎に開催している（第2回は感染症により書面会議）。利用者の状況や活動内容、ヒヤリハット、感染予防策等の報告や協議を行い、委員からは地域の情報やケアに関する質問、意見等が出されて業務やサービスの向上に繋げている。また、司法書士やコンサルタントを講師に成年後見制度等の研修も会議の中で行っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	長寿あんしん支援センターへは、紫原行事予定表を送付し事業所の近況報告を行っている。また、行政連絡事項については、電話・電算システム・または直接足を運び迅速に対応している。	市の担当者とは窓口や電話で、介護保険の代理申請や各種制度の申請・報告、感染症にかかる協議や相談等を行い、助言や指導、提案を貰うなど、日頃から協力関係を築いている。長寿安心相談センターとも入所待機者に関すること等で密に連携している。市からの情報の把握に努めオンラインによる研修にも参加して運営やサービスの向上に努めている。現在、生活保護受給中の利用者はいない。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員を選出し、定期的に研修を行い入居者様の尊厳を損なわないケアを心掛け防止に努めている。	身体拘束については運営規定や利用契約書、重要事項に明記され、高齢者虐待を含む研修を毎月実施しており、ミーティングやユニット会議、日頃のケアの中で振り返りや意見交換を行って拘束の無いケアに取り組んでいる。身体拘束適正化の指針を整備し委員会を運営推進会議の中で開催して認識を共有しており、スピーチロック等不適切なケアを見受けた時はその都度、助言し合うなど日常的に改善を図っている。センサーの利用に際しては、事前に家族の了解を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修を定期的に行い、研鑽しており、虐待について見過ごすことなく、防止出来る様努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	人権擁護について内部の研修を行い又講師の方をお招きし学習を行っている。必要時はその都度関係者と話を行い活用できる様支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時ご家族様へ契約書、重要事項説明書に沿って十分な説明を行い疑問や質問にもお答えしている。ご理解を得られたかその都度確認し契約や解約の署名、捺印をもらっている。介護報酬改正等あった場合は文章でお知らせし了承をもらっている。また、入居前にはご本人様かご家族様に見学して頂き納得して頂いてから契約に繋がっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に意見箱を設置しているがあまり活用されていない。施設の相談担当者・解決担当者・外部に定めた第三者委員会の連絡先を重要事項説明書に明記して説明並びに玄関に掲示している。	利用者や家族とは日頃からコミュニケーションに努め、気軽に話せる関係づくりを心がけている。利用者の思いは日常の会話や表情、仕草等で汲み取り、家族からの要望は、面会や電話、家族会（年1回）、意見箱で、また、毎月、写真やコメントを掲載した「グループホーム紫原」で利用者の状況を伝えながら把握している。出された意見要望等はミーティングやユニット会議等で協議し、内容によっては法人本部とも相談して運営やサービスの改善に取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の業務の中や月一度のミーティング時に意見や提案を聞いておりその都度解決へ向けて取り組んでいる。	管理者は、日頃の業務の中やミーティング、ユニット会議、個別面談等で意見や要望、悩み等を把握し、法人本部とも協議しながら改善に努めている。日頃からケアへの助言や研修の実施、休憩時間の確保等に努めており、勤務シフトには職員の意向を反映させ、有給休暇の取得の促進や個人的事情も配慮し、働きやすい職場作りに取り組んで信頼及び協力関係を築いている。給与体系や外部研修受講時の経費の助成制度等が整備されて職員の意欲向上に繋がっており、定着率も良い。	
12		○就業環境の整備	資格所得による手当の支給や実績による評価をして頂く等向上心をもって働くことが出来るように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画を立てて職員が持ち回りで様々な研修内容の資料を準備し勉強会を行っている。外部評価も案内を回覧したり参加出来るようにすすめている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会の研修に参加したり、その他の研修等に参加する事を推進し、情報交換・交流の場を広く持てるように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学时や入居前の訪問調査に伺った時に、ご本人の不安や要望等を傾聴し、安心信頼して頂ける様、関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っている事や不安な事、要望等を伺い、納得がいく様説明を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際、生活面・経済面・健康面等の状況を把握し、本人に適したサービスが利用出来る様、他の施設や事業所と連携を図り対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器洗いや洗濯物たたみなど本人様の得意な事を活かしながら、毎日の生活の中で共に寄り添える関係を大事にしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染対策をしながら面会や外出をしていただいている。また、ご家族様に近況をお伝えし、ご家族様も面会や外出時に状態の変化に気付いた時は職員にお伝えして頂くようお話している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お届け物を居室に飾ったりし居心地よく過ごせる様対応し年賀状を馴染みの人に出す援助を行い繋がりが途切れない様支援している。	利用者毎の家庭環境や馴染みに関する情報を把握している。コロナ感染症が5類に移行したこともあり、本年度は居室やホールでの面会を制限しない状態で再開し、周辺の散歩や訪問美容、ボランティアの受け入れ、家族との外出や外食、一時帰宅、墓参、法事への参列等に取り組んでいる。毎月の園便りで利用者の近況を写真やコメントで伝え、電話や手紙の取り次ぎにも努めて家族に喜ばれている。携帯電話を所持している利用者は日常的に家族との会話を楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や趣味等共通性を把握しトラブルにならない様共同生活がスムーズにいく様支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もいつでも相談に応じて必要時支援に対応する様努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中の会話やご本人様へお話を聞いたり様子を観察してニーズを把握する様に努めている。困難な場合は表情や動作から読み取ったり、ご家族から聞いたりと把握に努めている。	重度化や難聴によりコミュニケーションが難しい利用者もいるが、日頃の会話や仕草、独自のサイン、筆談等で思いの汲み取りに努め、家族の意向も確認しながら、その人らしい安全で生きがいのある暮らしとなるように取り組んでいる。利用者が楽しみとする趣味（はり絵、カラオケ、縫い物、テレビの視聴他）や家事（炊事の補助、テーブル拭き、洗濯物たたみ他）の取り組みも体調や残存機能に配慮しながら個別に支援し、これらの成果には評価や感謝の言葉を添えて自己肯定感の修得を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人のペースで生活出来る様ご家族やご本人と会話にて情報を聞き支援できるようにしている。また、今まで生活されている中で使用されていた家具や布団、趣味の物を持って来られている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人一人の生活リズムを把握しながら、バイタルチェックをしていき、又、ご本人の様子を観察しながら、体調の変化を気づき、悪い様子ある時は、主治医や訪問看護へ報告し連携を図っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様やそのご家族、関係者や職員から意見を聞き、カンファレンスを開催した際に、意見交換をしながら話し合いをし、介護計画に反映されるように努めている。	利用者や家族の意向を汲み取り、主治医の指示やモニタリング、カンファレンス時の職員の意見、日々の記録等を基に、習慣や楽しみ等にも配慮した計画を作成して改善に努めている。計画は全職員が回覧で周知しており、利用者の状況が変化した際は計画を実態に沿って変更している。職員は実施状況を各種のチェック表や介護日誌等で共有している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者様の日々の様子を観察し、特記事項などは、毎日、朝・夕の申し送り時やノートへ記載し、職員で情報共有し、介護計画の見直しを行っている。又、観察した内容は記録へ記載し残している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様一人一人のニーズを記録していき、ご家族の状況等に応じて、柔軟な支援が出来る様努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署の監修にて、避難訓練や救急救命訓練を行ったり、運営推進会議を開催し、安全で豊かな暮らしを楽しむ事が出来るように努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	適切な医療が受けられる様、ご本人やご家族の希望に合わせたかかりつけ医との連携を図る。又、状態や症状に合わせ、ご家族への報告・相談し専門医への受診も行っている。	本人・家族が希望する医療機関での治療を支援しており、現在7か所の医療機関を主治医としている。定期的な訪問診療（月2回）や通院を実施し、他科受診も家族と協力して取り組んでいる。医療連携の看護師に週1回訪問してもらい健康管理や感染予防対応等に努めており、24時間医療連携の体制も構築して適切な医療を受けている。健康状態は家族にも密に報告して共有を図っており、利用者及び家族の信頼、安心に繋がっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医・機関の看護師へ、日常の中で気付く状態変化を報告し、適切な医療を受けられる様、連携を図っている。医療連携にてこられる看護師へ、近況の報告を行いつつ、変化ある時は連絡行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時はサマリーの提供を行っており、立ち会っての情報提供も行っている。又、入院中、定期的に状態をお聞きし、退院された際に滞りなく帰ってきて頂ける様支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期において、ご家族様と話し合い行っており、職員への情報提供も行っている。又、出来るだけご本人が安心して頂ける様配慮を行い、チームでの支援を行っている。	重度化や看取り時の対応は、「重度化や終末期における介護指針」を整備し利用開始時に本人や家族に説明して理解を得ている。重度化した時点で再度家族の意向を確認し主治医や訪問看護師と連携して可能な限りのケアをチーム体制で取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備え、各個人のマニュアルの作成や、毎月のミーティング時にて、研修を行っている。又、年1回2月に救急救命訓練を行っており、スムーズに行えるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、消防署に依頼し夜間と昼間の火災避難訓練と地震の避難訓練を行っている。水や防災グッズ、担架を分かり易い場所に設置しており、火災通報装置、スプリンクラーも設置している。	年2回（1回は消防立ち合い）夜間想定を含む火災や台風、地震災害の防災訓練を実施し、災害時の通報や防火設備の取扱い等も研修している。日頃から連絡網や避難場所及び経路を確認し、毎月コンセンを清掃する等、防災への認識を共有しており、災害発生時の飲料水や食料品、介護用品は約3日分程度を備蓄している。BCPは作成済で薬剤師等も参加して研修も実施している	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの入居者様を敬い各々に応じた言葉かけを行うようにしている。訪室時はノックをしてご本人様に確認をする等、プライバシーを損なわない対応をしている。	人格の尊重や個人情報の取扱い、秘密保持については運営規定や利用契約書に明記され、研修の実施やケアの振り返り等で認識を共有している。ホームはプライバシーに配慮した構造になっており、排泄や入浴、衣服の着脱時の支援は尊厳や人格を尊重し羞恥心、習慣等にも配慮した言葉やケアに努め、居室への入室時はノックや声掛けを励行する等、接遇マナーに努めている。利用者との会話には選択肢も伝えるなど工夫し、利用者の自己決定を尊重したケアに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけをしている	信頼関係を築き、ご本人の思いや希望を表して頂けるように努力している。又、表現出来ない入居者様については、表情やしぐさ等から思いを汲んだり察したりするように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のペースや希望に合わせた支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	希望に合わせた衣類を選べるように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	台拭きやお盆拭き、お茶碗洗い等、各入居者様の能力や希望に合わせて職員と一緒にやっている。	食事は利用者の何よりの楽しみで関心も深いことなので、栄養バランス、嗜好、季節感、代替食、アレルギー等に配慮して調理している。ミキサー食や刻み食など利用者の状態に応じた形態に努め、行事食（おせち、敬老会他）や仕出し弁当、誕生日の希望食やケーキ、手作りのおやつ（芋菓子、パンケーキ、金柑漬け他）、外注のお弁当、養命酒やノンアルコール等の提供等工夫しており、利用者も食材の下処理やテーブル拭き、食器洗い等を楽しみながら一緒に行っている。	

12

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録して把握するように努めている。摂取量が少ない方には言葉かけを行ったり、ご本人の好きな飲物、食べ物を用紙するなどして対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを必ず行っている。御自分でされる方も見守りや仕上げ磨きを職員が行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人排泄パターンを把握し、職員間で共有して、トイレの声かけや誘導を行っている。立位保持が困難な入居者様については、職員が二人で介助する等、可能な限りトイレでの排泄が出来る様に支援を行っている。	利用者の自尊心や習慣、羞恥心等に配慮し、身体の状態やパターンに対応した支援をプランに反映させて取り組んでいる。昼間は声掛けや誘導、2人介助も行いながら可能な限りトイレでの排泄を支援している。利用者毎に介護用品やケアの方法を工夫し便秘の予防に水分や食事の摂取量、手作りヨーグルトのおやつ、運動等に配慮しており、状況によっては主治医にも相談しながら対処している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	10時のお茶の時間に手作りヨーグルトを提供している。歩行出来る方は、出来るだけ歩行する機会を作るように支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴については一人一人決まっ てはいるが、体調やご本人の都合（通院や外出等）に応じて変更行っている。また、湯舟へ浸かれる方は、安全に入浴できるよう支援行っている。	午前中に個浴での入浴を基本週2回支援しているが、状況によってはシャワー浴や清拭で保清している。入浴の順番や温度、時間、好みのシャンプー、同性介助等は意向に沿って柔軟に対応しており、長年の習慣に沿って夕方入浴する利用者もいる。入浴後は水分補給や保湿軟膏の塗布等を支援している。入浴を渋る利用者には時間や介助者の変更、声かけ等を工夫し、時間の変更や清拭、足湯での対応など利用者の意向を確認しながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	出来るだけ安眠して頂ける様、入居者様一人一人の体調や生活習慣を考慮し入床時間の調整や空調・明るさ等の調整を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬ファイルを一人一人に作成しており、いつでも職員が閲覧出来るようにしている。また、準備時や服薬時に職員2名による二重チェックを行っており表へ記入している。薬の管理指導については、担当薬局の薬剤師より指導して頂いており、薬剤師と情報共有を行い薬剤変更時等の必要に応じて相談を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月一回の誕生会や行事を楽しんで頂ける様支援しており、イベントにあった料理（おせちやおしるこ・七草がゆ等）を提供し、雰囲気や気分を出して頂ける様演出している。日常では、テレビの視聴や物を使ったゲームをされたり、入居者様同士や職員と会話を通じ馴染みの場所に感じられる様に支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	まだコロナの心配はあるが、ご家族の面会へは特に規制をしておらず、筋力向上の為に、ご家族様と散歩へ行かれたり、職員とご家族様とで、介助の必要な方も初詣等に参加できるように支援している。	コロナ禍やインフルエンザ等の感染予防に配慮しながらベランダでの外気浴や周辺の散歩、ドライブによる季節の花見、神社参拝、他科受診、家族との外出や買い物、外食、墓参、一時帰宅等に取り組んでいる。また、ホーム内のレクリエーションも時節に応じた作品作りや軽い体操、ゲーム、昔の音楽やカラオケ等、工夫してリフレッシュを図っている。地域のイベントの殆んどが中止となっているが利用者は再開を待ち望んでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様と買い物へ出かけ、ご本人の欲しい物買い物して頂いたり、また、出掛けにくい方については、ご希望を聞き、ご家族様へ相談し購入して頂くか、職員の買い物へ出かける際に購入の支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	携帯電話等の通信手段を持たれている方で、自ら電話する事が難しい方については、職員支援して会話を楽しまれている。また、希望があればホーム内の電話を使用しご家族へ連絡されるのを支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて、飾り付けを入居者様と行い、居心地の良い空間作りに努めている。日常では、明るさや空調・室温や湿度の調整をし過ごしやすきよう支援している。	ホーム全体がバリアフリーの構造で廊下やホール等は余裕のある広さが確保され、広い窓からは周辺の街並みや桜島が眺められている。整理整頓や採光、空調等にも細かに配慮し随所に手すりが設けてある。ホールや廊下、階段には季節に沿った展示物や利用者の作品（絵画、貼り絵他）、活花等が飾られて、和やかで清潔感のある空間となっている。キッチンからは調理の音や臭いも伝わり家庭的な雰囲気、テレビやテーブルセット、ソファ、空気清浄機等が利用者の利便性や人間関係も考慮して設置されており、利用者は好みの場所で平穩に過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様一人一人の状態に応じ、席順や机の位置を考慮し、他入居者様との交流も考慮しながら、思い思いに過ごして頂ける様配慮している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際には、実際に生活されていた環境に近付ける為に、ご本人が使用されていた生活用品（テーブルや椅子、タンス等）の持ち込みをお願いし、季節毎の衣替えの持ち込みもお願いし工夫している。	居室入口には戸惑うことのないように写真と氏名が意向に沿って表示され、室内はフローリングに腰高窓の構造で明るく余裕ある広さが確保されている。エアコン、ベッド、タンス、洗面台が備えられ、利用者の意向を確認しながら清掃や整理整頓を支援している。利用者は自宅からテレビや寝具、タンス、ハンガーラック、家族写真等を持ち込み、自身の作品や頂いた品物等も飾るなど、家庭同様に居心地良く過ごせる環境を整えて平穏な日々を過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行が不安な方の為に、廊下やトイレ・浴室等に手すりを設置し、入居者様自らの力で出来るよう支援している。また、歩行器の使用もして頂き安全に歩行出来るよう支援している。各設備の入り口（トイレや脱衣所等）は、分かりやすいように名札等を使用し工夫している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない